

学校評価報告書

学校名 深谷市立本郷小学校

校長名 齊藤 寛 印

1 学校評価のねらい (学校・園としての受け止め)

- ・教育活動を振り返り、以降の活動に工夫改善を図り、教育活動の充実に資する。
- ・教育活動の成果と課題を明らかにし、家庭・地域に説明責任を果たす資料とする。
- ・次年度の教育活動の重点等を決定するための参考とする。

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- ・自己評価 職員対象・年2回のアンケート調査(7月、12月実施)
- ・学校関係者評価 保護者対象・年1回のアンケート調査(12)月実施)

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化

①職員対象評価より

- ・「児童に、主体的な活動をさせる授業や指導をしている」の達成度は、78.6 %で、7月実施より0.01ポイント向上した。
- ・「研修で教師自身の向上があった」の達成度は、80.4 %で、7月実施より0.15ポイント向上した。
- ・「環境緑化が計画的に行われた」の達成度は、85.7 %で、7月実施よりも0.3ポイント向上した。

②保護者対象評価より

- ・「子どもは、学校が好きだと感じている」の達成度は、95.4 %で、昨年度よりも0.1ポイント上がっている。
- ・「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」の達成度は、94 %で、昨年度よりも3.8ポイント上がっている。
- ・「子どもは、進んで学習に取り組んでいると感じている」の達成度は、77.4 %で、昨年度よりも1.3ポイント上がっている。

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

学校教育目標「思いやりのある子・よく考える子・がんばる子」

スローガン「あいさつ日本一、笑顔があふれる本郷小学校」

①職員対象評価より

- ・「あいさつ日本一と言える子どもを育てている」の達成度は、75 %である。
- ・「笑顔があふれる子どもを育てている」の達成度は、83.9 %である。

②保護者対象評価より

- ・「学校は、思いやりのある豊かな心の育成に努めている」の達成度は、96.8 %である。
- ・「学校は、体力向上に向けて積極的に取り組んでいる」の達成度は、97.7 %である。
- ・「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」の達成度は、94 %である。

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

研究課題 「自他の関わりをとおして、よりよく生きようとする児童の育成」
～「考え、議論する道徳」の指導法の工夫をとおして～

①教職員対象評価より

- ・「教育活動全体を通し、豊かな心の成長はみられたか」の達成度は、80.4%である。
- ・「学校研究課題への取組状況は、どうであったか」の達成度は、85.7%である。

②保護者対象評価より

- ・「学校は、思いやりのある豊かな心の育成に努めている」の達成度は、96.8%である。
- ・「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」の達成度は、94%である。
- ・「子どもは、進んで学習に取り組んでいると感じている」の達成度は、77.4%である。

4 次年度に向けての展望

①教職員対象評価

教職員対象評価においては、学校の教育活動及び児童の様子等について94項目を自己評価している。課題のある事項（自己評価平均2.9以下及び自由記述での課題事項）について、各担当等で改善策を検討して共通理解を図り、それに沿って実践をしている。今年度の主な改善事項としては、「あいさつ日本一の子供の育成」「遠足宿泊的行事の実施場所・時期」「給食、清掃時刻の設定」「確かな学力の定着」等が挙げられた。来年度に向けては、改善事項の共通理解と共通実践を進めるとともに、評価結果の公表を通じた地域・保護者との協力体制づくりに力を入れていく必要がある。

②保護者対象評価

保護者対象評価における選択肢「よくあてはまる、ややあてはまる」の評価は、全項目平均で90.1%で9割を超えることができた。中でも、「学校が好き」「一人一人を大切にしている」「体力向上」「間違っただ行動への指導」「いじめ防止」「教育相談」「豊かな心の育成」「教育活動の伝達・公開」「環境整備」「健康安全」「家庭のふれあい」「家庭で間違っただ行動に適切に指導」「学校運営協議会との協働」は、プラスの評価の割合が高い項目であった。

一方で「子どもは進んで学習している」「家庭学習の習慣が身に付いている」「意志の日に取り組んでいる」「3つの運動の取組」の項目は8割に達しておらず、保護者は子どもに自分から学習に取り組めるようになってほしいという願いを持っていることがわかる。学力向上の具体的な取組を、家庭と連携・共有しながら強く進めていかなければならない。

保護者対象評価における選択肢「よくあてはまる、ややあてはまる」の全項目平均達成度は、平成29年度(90.7%)と平成30年度(90.1%)を比較するとほぼ同程度となっている。3ポイント以上向上している項目は、「授業がわかる」である。また、3ポイント以上下がった項目は、「家庭学習の習慣」「早寝早起き朝ご飯」「学校運営協議会との協働」である。学校生活での児童の自己実現とともに、基本的な生活習慣と家庭生活指導の充実が図れるよう家庭・地域との連携を強化して取り組む必要がある。